

【第9回】肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会

●第9回肱川大規模氾濫に関する減災対策協議会

- ・実施日：平成31年1月15(火) 14:00～15:45
- ・場所：大洲市総合福祉センター 4階 多目的ホール
- ・出席者：大洲市長、伊予市長、西予市長、西予市消防本部消防長、砥部町副町長、内子町副町長、松山地方気象台長、愛媛県（南予地方局八幡浜支局長、大洲土木事務所長、西予土木事務所長、中予地方局建設部長）、大洲警察署長、西予警察署警務課警備上席係長、伊予警察署警備課長、松山南警察署警備課長、四国地方整備局（大洲河川国道事務所長、山鳥坂ダム工事事務所副所長、野村ダム管理所長）
- ・事務局：大洲河川国道事務所、大洲土木事務所

●開催状況



●構成員の主な発言要旨

- ・鹿野川ダムトンネル洪水吐について、運用方法を早く調整して頂き、早期に住民に説明して頂きたい。現在、復興計画を作成しているが、肱川地区や大川地区等の河川整備計画について可能な範囲でアドバイス等いただきたい。また、ダム放流による下流県管理区間の浸水状況のシミュレーション結果について、実施して頂き情報を共有頂きたい。（大洲市長）
- ・民家が点在している山間部においては、土砂崩れ等で避難所に到着できない可能性があるもので、小集落ごとに一番安全な場所を見つけておき、小康状態になった時点で避難所に避難する、といった事を考えておかねばならないと感じた。（伊予市長）
- ・河道掘削や野村ダムの機能向上等で、野村ダム下流が1000m³/s安全に流れる川を確保してほしい。気象予測が向上すれば、違ったダム操作も可能かと認識したので、引き続き予測の精度向上の研究を進めて頂きたい。（西予市長）
- ・肱川流域である旧広田村では、浸水や土砂災害による通行止めにより、避難所に行けない住民の方がいた。取組方針に沿って、減災対策に取り組んでいきたい。（砥部町副町長）
- ・ハザードマップによる周知、メール配信、個別受信機の配布等を実施しているが、被害を少なくするための取組についてご指導いただきたい。（内子町副町長）
- ・平素から、関係機関と気軽に情報共有・情報交換できる体制を構築しておくことが大事と考えている。（大洲警察署長）
- ・気象庁では、市町に担当者を派遣して、防災気象情報の扱い方について市町の防災担当者を対象に勉強会を開催している。ご希望の機関があれば、ご連絡いただきたい。（松山地方気象台長）

●テレビ・新聞等の取材状況

- ・テレビ：3社（NHK、南海放送、ケーブルネットワーク西瀬戸）
- ・新聞：3社（愛媛新聞、読売新聞、朝日新聞）